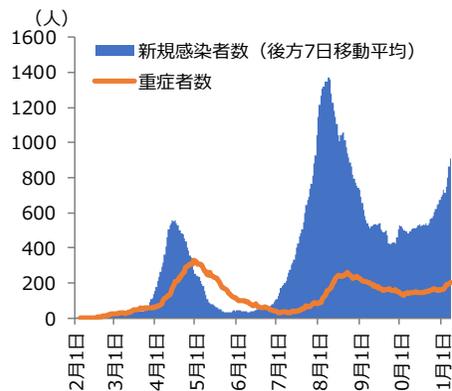


日本

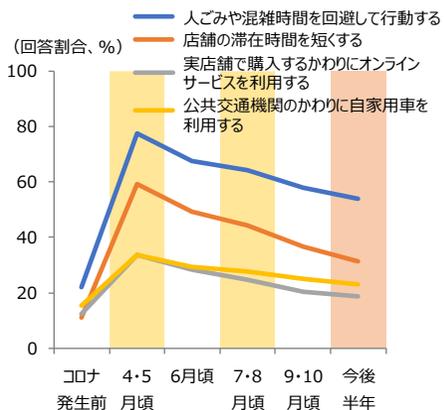
生活者5千人調査：コロナ感染拡大下での行動変化
重症化リスクが高い年代ほど感染防止を意識政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 国内の感染状況



注：新規感染者数は後方7日移動平均。最新は11月8日時点。
出所：厚生労働省より三菱総合研究所作成

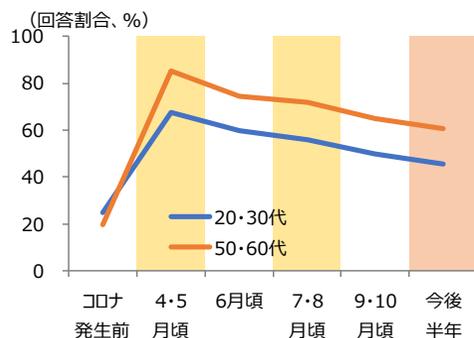
2 感染防止行動（生活者調査）



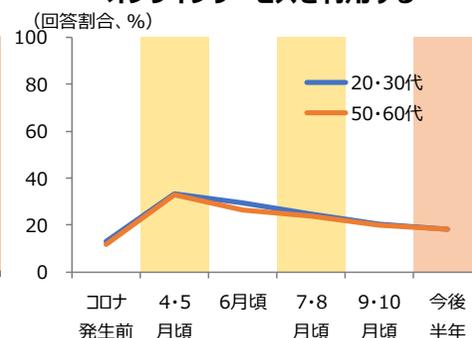
注：黄色い網掛けは新型コロナウイルスの新規感染者数が増加した時期。赤い網掛けは今後の意向。
出所：三菱総合研究所「生活者市場予測システム（mif）」アンケート調査（20年10月16-19日に実施、回答者5,000人）

3 年代別行動変化（生活者調査）

人ごみや混雑時間を回避して行動する



注：黄色い網掛けは新型コロナウイルスの新規感染者数が増加した時期。赤い網掛けは今後の意向。
出所：三菱総合研究所「生活者市場予測システム（mif）」アンケート調査（20年10月16-19日に実施、回答者5,000人）

実店舗で購入するかわりに
オンラインサービスを利用する

評価ポイント

問題意識と調査概要

- 新型コロナウイルスの感染拡大は長期化しており、現在も緊急事態宣言時を上回る感染者数となっている（図表1）。ただし、感染が拡大する中でも経済活動は、4月・5月をボトムに持ち直している。背景には、自粛要請の解除やGo Toキャンペーン等の政策支援もあるが、感染が拡大する中で生活者の意識が変化した可能性がある。
- 当社では、感染拡大が継続する中で生活者の感染予防行動等の行動変化を確認するために、生活者アンケート調査を10月に実施。回答数は、20代から60代の各年代から1,000件、合計5,000件。感染防止行動の実施状況について、コロナ発生前から今後半年程度まで、6つの期間別に調査した。

生活者5千人調査の結果

- 感染防止行動の実施状況を見ると、緊急事態宣言下の4月・5月をピークに、その後は減少傾向にあるが、生活者の多くは依然として感染防止行動を実施している（図表2）。例えば、「人ごみや混雑時間を回避して行動する」割合は、4月・5月頃がピーク（8割程度）をつけたが、現在（9月・10月頃）でも5割程度が実施している。
- 感染防止行動の実施状況を年代別に見ると、20代・30代と50代・60代では実施状況に差がある。一般に新型コロナウイルスは、基礎疾患がある場合や年齢が高くなるほど重症化リスクが高いといわれている。50代・60代では、感染防止行動を実施している割合が他の年代と比較して高い。リスクの低い20代・30代と比較すると、コロナ発生前の各期間において、実施割合に15ポイント程度の差がある。（図表3左）。年代によりリスクが異なることから、生活者の行動にも差があらわれたとみられる。
- 一方でオンラインサービスの利用には年代差がみられなかった（図表3右）。デジタル技術の利用に対する受容性が年代に関係なく高まっていることが背景にあるとみられる。
- 本調査からは、生活者が引き続き慎重姿勢を維持しながらも、消費等の経済活動を再開させていく意向を持っている様子が確認された。
- ただし、国内の感染者数は北海道等の寒冷地を中心に増加傾向にある。自治体による自粛要請や重症者数・死者数が急増した場合、重症化リスクが高い年代を中心に生活者の自粛意向が再び強まり、持ち直した消費が再び落ち込む可能性がある。